

令和4年度 第3回大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和5年2月1日（水） 午後3時45分から午後5時
- 運営協議会委員出席者（敬称略）
 - 菊田 久雄（大阪公立大学 副工学部長）、中村 俊一（立志館ゼミナール館長）
 - 濱田 利恵子（泉北高校PTA会長）、宇田 こずえ（泉北高校後援会 会長）

校長、教頭（司会）、池ノ上（首席、書記・探究活動担当）、大内（首席、広報・ICT担当）、篠原（進路指導主事）、松永（SSH研究主担）

1. 校長あいさつ

新型コロナウイルスの学校における現状

サイエンスツアー（東京方面）、泉北科学フェスティバルを開催（総合科学科）

LETS（府立高校国際関係学科）の発表会に参加し受賞、英語 Speech コンテストにおいて優勝

堺市のスマートシティコンソーシアムに参加予定

探究活動が令和5年2月の広報さかいに掲載

少林寺拳法・ダンス部が全国大会出場決定

3年生は1月31日に授業終了⇒卒業式

帰国生入試・一般入試を控えている

2. 協議事項（敬称略）

○令和5年度学校経営計画について、校長より説明

○委員の皆さまからいただいたご意見

（委員）：家庭学習促進のための努力をしていくというのは、講習をしているという意味なのか？学校外で時間が伸び悩んでいるのは、単純に宿題を出せばいいのではないのか？

（事務局）：自宅での勉強時間とは宿題をするという活動と繋がらないこともある。生徒は休み時間に勉強をしていることがあるので、家庭での勉強というよりはトータルで勉強をしているという評価をしていかないといけない。

（委員）：アンケート言い方をもう少し変更してみてはどうか？授業時間外という表現を生徒がどうとらえているかが、データを緻密に取り切れないのが現状であると考えられる。

（委員）：14・15番 一部の生徒が評価されていて、多数の生徒が興味を持っていないのではないのか？いじめについてという設問について気にかかる。対面では出ないが、SNSによるいじめが存在しているのではないのか？SNSのリテラシーについて言葉を選んで活用すべきである。クラブを熱心にやっているが、実はそれが原因で学業と両立できず悩んでいるのではないのか？

（事務局）：いじめ問題に多いのがSNSなので、デジタルリテラシーについての研修を1年で行っている。来年度の学校経営計画ではいじめの件数を目標にするのではなく、教員が組織的に対応していくことを目標としたい。部活動と学習の両立については、ノークラブデーを活用しながら引き続き課題として検討していく。

（委員）：授業時間外の学習時間3年生はふつう多いはずなのに、少ないのは、総合選抜で決まっている生徒が多いから勉強をしなくなるのか？その結果、学習量が減っているのか？進路が決まっている生徒に対して勉強を促すことは難しいと思うが、実際に高校3年でここまで勉強しないことは驚きである。

（事務局）：進路決定後の生徒に対しては基本的には学習を継続するように指導している。しかしながら

入試前のコロナ感染不安の為にやむを得ず欠席したり、塾で勉強を朝からする生徒もいると聞いている。受験勉強も大切だが、学校では引き続き教育活動の必要性を伝えながら登校を促したい。

(委員)：総合型選抜の国際・総科の割合は？クラブ活動の一環で、クラブノート（クラブ日誌）に将来の自分像を描かせている。クラブだけじゃなく、勉強もしようという指導をしていただいているので、クラブをしている時から先生方の学習意欲を高める工夫を感じている。

(委員)：授業がうまい先生方の授業をいかにして他の先生方に還元していくか検討が必要。また、シェアブラリーの評価が利用者の人数集計だけにならないように、生徒・住民にどのように利用してもらうか、目的を明確にすべきである。

(事務局)：良い授業への理解を深めるため授業見学を促し、必要に応じて両首席が助言する。教え方にはさまざまな方法があるという考え方をまず知ることを伝えている。

(事務局)：初任者の研修において、様々な教科の情報交換などを行う。様々な考え方を知ったうえで、今後の教育活動に活かしていく。

(事務局)：(シェアブラリーについて) シェアの仕方や居場所づくりができるよう探究活動等でも取り組んでいる。

(委員)：講習についての評価が低いのは、生徒のニーズと講習の内容のミスマッチが起きているのではないか。生徒のニーズに合わせて講習を実施できないか。(授業改善について) 授業見学のポイント（視点）をあらかじめ与えて見学させると効果的である。

令和5年度学校経営計画について

<校長による説明>

スクールミッション・スクールポリシーに関してグローバルという文言を追加

中期的目標にておいて「AO入試」等現在使用していない文言を修正

2. 確かな学力の取組みに新たな項目を設定（基礎学力の向上に対し偏差値の目標数値を掲載、ICTによる学習習慣の確立）

3. 国際関係の取組み（ユネスコスクール加盟を辞退）

<委員の意見>

(委員)：総合型選抜合格者（目標）人数の削除、模試を実施しないこと理由。

(事務局)：正しい表記に変更した。内容が大きく変わっているというわけではない。模試という名称ではなく、学習状況調査は実施する。

(事務局)：表記内容について、隙間時間の活用や学習状況調査等の内容を反映することで、各項目の内容に修正を反映させた内容となっている。従来の合格者数のみを表記するのではなく、1学年より継続的に学習を定着させることを目標にした表記に変えた。

(事務局)：基礎学力の定着という表記は、目標として具体的に設定し、達成度を測るように実践したい。データをどのように使うか、が今後重要になってくる。指標の活用方法を精査していく。教員にも周知している。

(委員)：受験期に学校に来ないのは、進路が決まった生徒が多いためと考えられる。受験前の生徒が集中できないので、塾の方に行ってしまうのではないかと。受験期に学校で勉強できるような環境づくりに取り組んでほしい。

(事務局)：私立ではこの時期授業がない学校もある。公立高校ではどうすればよいか、ということが今後の挑戦である。継続して高校としての在り方を作っていかなければならない。

○令和5年度学校経営計画について、委員の皆さまより承認を受けた

○配布資料

	次第
資料1	配席図
資料2	学校教育自己診断（生徒・保護者・教員）
資料3	令和4年度 学校経営計画及び学校評価(案)
資料4	令和5年度 学校経営計画及び学校評価(案)